

平成24年度未来の京都創造研究事業 研究だより

第4号

本事業は、大学の若手研究者等と京都市の担当部署が協力しあって調査・研究を進めることで、京都市の政策や事業に生かすことのできる、より実践的な研究成果の獲得を目指して昨年度から公益財団法人 大学コンソーシアム京都が京都市と共同で行っている事業です。

前回の第3号では自由課題2件の調査・研究の進捗を報告しましたが、今回の第4号では指定課題「京都地域の大学進学に修学旅行等が与える影響分析と学校行事を活用した魅力発信の方策」に取り組んでおられる研究代表者から調査・研究の進捗を報告していただくとともに、先日実施した中間報告会の様子をお知らせします。

修学旅行の訪問先が大学進学に与える影響の分析と大学の魅力発信の方策

～修学旅行生および大学在校生に対するアンケート分析等を事例として～

平安女学院大学国際観光学部 准教授：井上 学

京都における「大学」と「修学旅行」との関係性を、修学旅行生（中学生・高校生）および現在京都の大学に在籍する学生へのアンケート調査により明らかにします。また中小規模の大学が修学旅行生に対して大学の魅力を発信する方策も検討します。

研究代表者のプロフィール（専門：経済地理学・交通地理学）

過疎地域や都市部のコミュニティバスなど、バス交通の維持や公共交通を中心とした街づくりに関わる調査・研究を進めてきました。大学では学生の皆さんと街あるきをして、地域資源を再検討・再発見しています。

調査・研究の状況

主な取り組み内容

- ・京都市の複数の担当部署や研究協力者との打ち合わせ
- ・アンケート（修学旅行生と現役学部生・院生）内容検討
- ・アンケート協力依頼（旅行会社、旅館組合、各大学等）
- ・地方出身の在学生への聞き取り調査
- ・アンケート（修学旅行生と現役学部生・院生）実施中

修学旅行で訪問した地域は、多くの人にとって日常生活とは異なる地域であり、それだけにその時の体験は大きな思い出となるでしょう。それがその後のライフステージにおける地域の選好にどの程度影響しているかという点に関心があります。私の周りにも「京都が好き」「京都に憧れて」大学を選択した人がたくさんいます。その人たちの想いを少しでも明らかにしたいと思います。

今後の抱負

現代観光のひとつの特徴に「学ぶ」というキーワードがあります。「観光都市」であり、大学が集積する「教育都市」でもある京都市の特徴はその言葉を具体的に実現できる都市といえます。今回の調査を通じて、修学旅行で「大学を訪れる」という行動が、新しい観光行動のひとつとなることを検討したいと思います。

アンケート募集中（現役学部生・院生対象）

現役学部生・院生向けのアンケートを大学コンソーシアム京都のホームページを利用して、12月31日まで実施しています。まだアンケートに回答していない方は、是非ご協力お願いします！

大学コンソーシアム京都のトップページ
ここをクリックしてアンケートへ



また、下のQRコードを読み込めばアンケート画面にとびます！



中間報告会を開催しました！

本年度に新たに取り組むこととなった5件の調査・研究の中間報告会を11月1日（木）にキャンパスプラザ京都で行いました。本報告会は、7月から開始された調査・研究の振り返りと本事業の運営委員から調査・研究に対する助言をいただくことを目的に、各研究代表者がこれまでの進捗状況や今後の課題等を10分間で報告し、それに対する10分程度の質疑応答を行うものです。

当日は、各研究代表者からの報告後、活発な質疑応答が展開されました。参加した研究代表者にとっては今後の研究を進めていくうえで大変有意義な中間報告会となりました。

報告テーマ

- ①「四地域を通して考える地蔵盆 ～世代間の伝承構造と地域コミュニティでの機能～」(京都精華大学・真下教授)
地蔵盆の実態や経年変化が発表されたことを受け、今後の方向性を中心に質疑応答されました。
- ②「地蔵盆の運営実態と地域のレジリエンス向上に果たす役割に関する研究」(京都大学・前田研究員)
地蔵盆の運営実態に関するアンケート結果の分析方法と、その結果の活かしかた等について質疑応答されました。
- ③「修学旅行の訪問先が大学進学に与える影響の分析と大学の魅力発信の方策 ～修学旅行生および大学在校生に対するアンケート分析等を事例として～」(平安女学院大学・井上准教授)
在学生に対するネットアンケートと、中高生の修学旅行生向けアンケートの方法等について質疑応答されました。
- ④「二条駅周辺の再開発とまちづくり ～『立地創造』の視点から～」(立命館大学・加藤准教授)
駅周辺の変化の様子をコミュニティ内・外から見る場合に、どのように要因分析するか等が質疑応答されました。
- ⑤「京野菜（地場農産物）でつながる洛中洛外ネットワーク：地産地消の過去・現在・未来」(同志社大学・三俣助教)
京都の伝統的な地産地消のスタイルである「振り売り」の現代的意義や、直売との違い、今後に期待されるありかた等について質疑応答されました。

*** **

来年3月には市民の皆様にも公開のもと最終成果報告会を開催する予定です。日程等決まりましたら、この研究だよりを通じてお知らせしますので、多くの御参加をお待ちいたします。



中間報告会の様子

編集後記

昨年度に始めた本事業ですが、継続課題である「真のワーク・ライフ・バランス」と合わせて今年度は6件並行して進めています。テーマが多岐にわたるため事務局も大変ですが、その分、大きな成果が期待されます。「京都らしさ」にこだわりつつ、年度末の最終成果獲得に向け、関係者と協力しあってさらに頑張ります。

ご意見やご感想がありましたら、以下の問い合わせ先まで、お気軽にお寄せください。

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 高等教育研究推進事業部 シンクタンク事業
担当：水田（みづた）、鳴海（なるみ） E-mail：mirainokyoto@consortium.or.jp
Tel：075-708-5803 Fax：075-353-9101